	鶏の筋肉	0.01ppm
	その他の家きんの筋肉	0.01ppm
	鶏の脂肪	0.01ppm
	その他の家きんの脂肪	0.01ppm
	鶏の肝臓	0.06ppm
	その他の家きんの肝臓	0.06ppm
	鶏の腎臓	0.2ppm
	その他の家きんの腎臓	0.2ppm
	鶏の食用部分	0.01ppm
	その他の家きんの食用部分	0.01ppm
	鶏の卵	0.01ppm
	その他の家きんの卵	0.01ppm
	魚介類	0.1ppm
	とうがらし（乾燥させたもの）	10ppm
	乾燥させたその他のスパイス（種子に限る。）	5ppm

第１のＡの７の⑴の表中カルボキシンの項、ジチアノンの項、セファロリジウムの項、チジアズロンの項、フェＡＤＡＤのＤＡＤのの２９の表中フェンチオンの項及びプリミスルフロンメチルの項を削る。

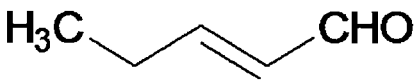
第２１のＡの２９の表中フェンチオンの項を削る。

第２のＡの２―ペンタノールの目の次に次のように１目を加える。

trans―２―ペンテナール

trans―２―Pentenal

(*E*)―２―Pentenal



C_5H_8O　　分子量　84.12

（２*E*）―Pent―２―enal［1576―87―O］

含　　量　本品は，*trans*―２―ペンテナール（C_5H_8O）95.0%以上を含む。

性　　状　本品は，無～淡黄色の透明な液体で，特有のにおいがある。

確認試験　本品を赤外吸収スペクトル測定法中の液膜法により測定し，本品のスペクトルを参照スペクトルと比較するとき，同一波数のところに同様の強度の吸収を認める。

純度試験　⑴　屈折率　n_D^{21}＝1.440～1.447

⑵　比重　d_{21}^{21}＝0.850～0.858

⑶　酸価　6.0以下（香料試験法）

定 量 法　香料試験法中の香料のガスクロマトグラフィーの面積百分率法の操作条件⑵により定量する。ただし，カラムは，内径0.25～0.53㎜，長さ50～60mのケイ酸ガラス製の細管に，ガスクロマトグラフィー用ポリエチレングリコールを0.25～１μmの厚さで被覆したものを用いる。カラム温度は，50℃で５分間保持し，その後毎分５℃で昇温し，230℃に到達後19分間保持する。検液注入後，０～60分の間に現れるすべての成分のピーク面積の総和を100とし，それに対する被検成分のピーク面積百分率を求め，含量とする。

第２のＤのリン酸一水素ナトリウムの目の次に次のように１目を加える。

リン酸一水素マグネシウム

Magnesium Monohydrogen Phosphate

$MgHPO_4 \cdot 3H_2O$　　分子量　174.33

Magnesium monohydrogen phosphate trihydrate［7782―75―４］

含　　量　本品を強熱したものは，二リン酸マグネシウム（$Mg_2P_2O_7$）96.0%以上を含む。

性　　状　本品は，白色の結晶性の粉末である。

確認試験　⑴　本品0.1ｇに希酢酸0.5ml及び水20mlを加え，塩化鉄（Ⅲ）試液１mlを加えて５分間放置後ろ過する。ろ液は，マグネシウム塩の反応を呈する。

⑵　本品0.2ｇを希硝酸10mlに溶かした液は，モリブデン酸アンモニウム試液を滴加するとき，黄色の沈殿を生じる。沈殿を分離し，これにアンモニア試液を加えるとき，沈殿は溶ける。

純度試験　⑴　フッ化物　Ｆとして25μｇ／ｇ以下

本品0.20ｇを正確に量り，ビーカーに入れ，塩酸（１→10）10mlを加えて溶かす。この液を加熱し，１分間沸騰させた後，ポリエチレン製ビーカーに移して直ちに氷冷する。これにクエン酸ナトリウム溶液（１→４）15ml及びエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液（１→40）10mlを加えて混合する。塩酸（１→10）又は水酸化ナトリウム溶液（２→５）でpH5.4～5.6に調整する。この液を100mlのメスフラスコに移し，水を加えて100mlとする。この液50mlをポリエチレン製ビーカーにとり，検液とする。電位を比較電極及びフッ素イオン電極を接続した電位差計で測定するとき，検液の電位は，比較液の電位以上である。

比較液は，次により調製する。

あらかじめ110℃で２時間乾燥したフッ化ナトリウム2.210ｇを量り，ポリエチレン製ビーカーに入れ，水200mlを加えてかき混ぜながら溶かす。この液をメスフラスコに入れ，水を加えて1,000mlとし，ポリエチレン製容器に入れて比較原液とする。使用時に，比較原液５mlを正確に量り，メスフラスコに入れ，水を加えて1,000mlとする。この液１mlを正確に量り，ポリエチレン製ビーカーに入れ，クエン酸ナトリウム溶液（１→４）15ml及びエチレンジアミン四酢酸二ナトリウム溶液（１→40）10mlを加えて混合する。塩酸（１→10）又は水酸化ナトリウム溶液（２→５）でpH5.4～5.6に調整する。この液を100mlのメスフラスコに移し，水を加えて100mlとする。この液50mlをポリエチレン製ビーカーにとり比較液とする。

⑵　鉛　Pbとして4.0μｇ／ｇ以下

本品2.5ｇを正確に量り，200mlのビーカーに入れる。塩酸（12→25）40mlを加えて溶かし，時計皿で覆い，５分間沸騰させる。冷後，クエン酸水素二アンモニウム溶液（１→２）10mlを加え，チモールブルー試液を指示薬として，アンモニア水で弱アルカリ性とする。冷後，沈殿がなるべくビーカー内に残るように注意しながら，上澄液を200mlの分液漏斗に移し，沈殿を水で洗い，洗液を分液漏斗に合わせ，約100mlとする。ピロリジンジチオカルバミン酸アンモニウム溶液（３→100）５mlを加えて５分間放置し，酢酸ブチル10mlを加えて５分間振とうした後，静置する。その後，酢酸ブチル層をとり，これを検液とする。別に，鉛標準原液１mlを正確に量り，水を加えて正確に100mlとする。この液10mlを正確に量り，試料液と同様に操作し，比較液とする。検液及び比較液につき，鉛試験法第１法により試験を行う。

⑶　ヒ素　As_2O_3として4.0μｇ／ｇ以下

本品0.50ｇを量り，希塩酸５mlを加えて溶かし，検液とする。装置Ｂを用いる。

強熱減量　29～36%（800±25℃，３時間）

定 量 法　本品を強熱し，その約0.5ｇを精密に量り，水50ml及び塩酸２mlを加え，加熱して溶かす。冷後，水を加えて正確に100mlとする。この液50mlをビーカーに移し，水100mlを加え，55～60℃に加熱する。ビュレットを用いて0.1mol／Ｌ　ＥＤＴＡ溶液15mlを加え，電磁式かくはん機でかき混ぜながら水酸化ナトリウム試液でpH10に調整する。アンモニア・塩化アンモニウム緩衝液10mlを加え，0.1mol／Ｌ　ＥＤＴＡ溶液で滴定する（指示薬エリオクロムブラックＴ試液12滴）。終点は，液の赤色が青色に変わるときとする。

0.1mol／Ｌ　ＥＤＴＡ溶液１ml＝22.26mg　$Mg_2P_2O_7$

第２のＦの２―ペンタノールの目の次に次のように１目を加える。

trans―２―ペンテナール

trans―２―ペンテナールは，着香の目的以外に使用してはならない。